

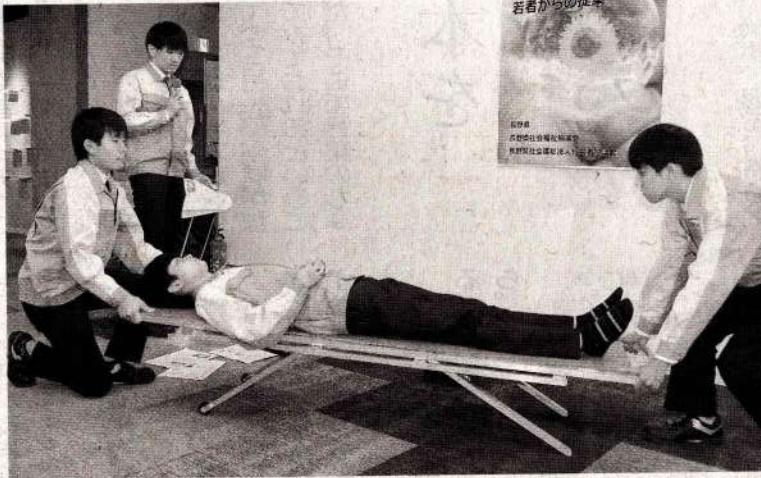
2019年(令和元年)

9月7日 土曜日

古紙100%使用

長 日刊

上伊那



介護現場で利用できるように考案した「リフター」をPRする駒ヶ根工業高校の生徒=5日、長野市内

案した生徒は「介護職員の負担を減らしたい」とPRした。コンテストに参加した同

審査結果は10日に発表し、上位5グループは20日に駒ヶ根市文化センターで開く県社会福祉大会で表彰と発表の機会を設ける。(唐澤翔)

福祉や介護分野の課題を解決しようと県内の高校生や大

学生が考えたアイデアを審査する県主催のコンテストが5

日、長野市内で開かれ、駒

ヶ根工業高校(駒ヶ根市)

の生徒が要介護者の移動に役立つ器具

「リフター」などを発表し

た。脚部可動させて体がベッドの高さまで上げることができる、考

案した生徒は「介護職員の負担を減らしたい」とPRした。

校3年生7人のうち、磯部丞さん(18)率いるグループが考案した。高齢者を床からベッドに上げる想定で、医療用ストレッチャーを参考にして脚部を折りたためる仕組みに。車部品の「ダンパー」を補助装置として活用し、簡単に持ち上げられるようにした。

設計に当たっては、介護施設への聞き取りを踏まえて身長約180cm、体重約85kgの利用者に耐えられる構造にした。磯部さんは「施設で大変そうに利用者を移動させる職員を見て発想した。高齢化が進んでいるが、福祉のために若者のアイデアを提案していければ」と話した。

コンテストは、多様化する介護・福祉のニーズに、生徒や学生の発想を生かすと企画され、県社会福祉協議会が運営。高校や大学、専門学校などが対象で、この日は書類の一次審査を通過した駒ヶ根工業高や信州大、長野大など11の個人・グループが参加。高校の参加は同校のみだった。

駒工高生徒が発表 介護器具「リフター」

福祉介護の県コンテスト

長野日報

Nagano Nippo